



糸魚川市根知地区で自然体験！  
 — 地域活性化のために私たちにできること —

柏崎市立高浜小学校

実施期日

平成20年7月19日(土)～

7月21日(月)(2泊3日)

平成20年8月1日(金)～

8月5日(火)(4泊5日)

< 低学年：8月1日～(2泊3日) >

宿泊地

高浜小学校 (2泊3日)

ホワイトクリフ (2泊3日)

民宿3軒分宿 (2泊3日)

対象学年 1年～6年 13名

引率教員 5名

ボランティア 6名



宿泊地の写真

## 1 宿泊体験実施（2泊3日：学校泊、4泊5日：他地域泊）に当たっての意図及び目標

児童の課題をもとに、ふるさと体験に向けた実践を通して、次のような力を「付けたい力」として考え、目指すこととした。

困難に出会っても、問題の解決に主体的に取り組む態度やものの考え方  
地域活性化のために自分にできることを考え実践する力  
ふるさとに自然に浸り、自然や命を慈しみ環境を守ろうとする心  
共通目標に向かう中での、協働の喜び及び達成感の獲得  
幅広く人間関係を築く力

上記の「付けたい力」をふまえ、目標を次のように掲げた。

困難があっても自分たちで課題解決していく行動力の育成  
自分や地域を見つめ直し、自分にできることを考え実践する力の育成  
自然に浸り、食生活を見直し、環境を守ろうとする心の醸成  
共同生活や協働体験を通じた達成感や成就感の獲得  
初対面の人とも人間関係を築く力の育成

## 2 宿泊地及び活動内容等が決まるまでの経過、工夫

### (1) 宿泊地（及び活動内容）を決定するまでの経過

- 20.2. 「農山漁村におけるふるさと生活体験推進校」に応募することを決定  
実施計画（略案）の作成
- 20.3. 4 子ども農山漁村交流プロジェクト研修会参加（県民会館）
- 20.3.10 校内企画会議。体験学習のコンセプトを話し合い、意思統一を図る。  
候補地案：佐渡、柏崎の海岸沿い、糸魚川緒木浦付近  
・全校参加・民宿とする、労働を組み入れる、海と山の狭間にある地域を選ぶ。  
・実施日時決定： 自給自足体験7/19～21、ふるさと生活体験8/1～5
- 20.3.26 新潟グリーンツーリズムセンターと打ち合わせ 候補地：糸魚川市根知地区  
・実施可能な体験活動の洗い出し
- 20.4.18 糸魚川市農林水産課より日程提案及び見積書が送られてくる。
- 20.4.21 ふるさと生活体験推進校打合せ（高浜小）：糸魚川市役所等より4名来校  
・根知地区振興計画プロジェクトZの説明 ・日程及び活動について  
会って話し合うことにより、互いに安心感をもつことができた。
- 20.4.22 糸魚川市農林水産課より、変更日程表及び見積書が送られてくる。

- 20.5.23 第1回豊かな体験活動推進協議会参加(新潟市)
- 20.5.28 子ども農山漁村交流プロジェクト推進ミニセミナー参加(新潟市)
- 20.6 宿泊体験学習に向けての生活科・総合学習の取組の見直し
- 20.6.23 現地下見・宿泊所確定(校長・教頭):(案内)糸魚川市農林水産課

(2) 教育課程編成上の工夫

自給自足宿泊体験学習は地域や保護者の協力が必要なので、土、日、月(祭日)に実施。

1日目(土) : 海の運動会(遠泳大会) = PTA行事。

2・3日目(日・月): 授業日(行事1、低:生活科10、中:総合10、高:家庭科4・総合6)

糸魚川根知地区体験学習は、8月1日から5日まで。夏期休業中の登校日扱い。授業時数はカウントしない。

宿泊体験後の活動: 浜清掃(行事1)、里山整備(生活科・総合6)

(3) 保護者への説明等について

自給自足宿泊体験学習は2度目なので、年度末のPTA総会時に年間行事予定で説明。ふるさと生活長期宿泊体験学習についても、同日に学校の希望を述べ同意を得た。全校宿泊体験も2年目になるためか、反対もなく、細かい打ち合わせまですることができた。

6月25日、実施計画表に基づいた説明会開催。保護者や地域にボランティアも募集。(ボランティア数、宿泊者4名、体験活動安全確認者7名)

\*ボランティアは、全行程参加者1名、他は、随時入れ替わりあり。

(4) 事前準備について

ア 活動場所についての打ち合わせ

糸魚川市下見の際に現地担当者と活動場所で、活動を想定しながら打ち合わせをした。

帰校後、事前調査に基づき職員を配当する。子どもだけで寝る、民宿には教師は付かない等の職員間の共通理解を図り、子どもの問題解決力育成に努めることとした。安全面から、民宿の見回りやパンフレットを参考にした活動ごとの職員対応を検討した。

イ 宿泊施設との調整について

下見の際、責任者と面会し体験学習の趣旨や日程説明をし、部屋割りや宿舎の都合等確認し合った。入浴、洗濯、食事、手伝い等の要望についても了解、確認を得た。

民宿の方とも事前に会い、当校児童への対応(家族のように、気兼ねなく様々な手伝いをさせ、日常を味わわせて欲しい等)についても同意を得た。

### 3 宿泊体験の活動プログラム

	1日目 7/19(土)	2日目 7/20(日)	3日目 7/21(月)	1日目 8/1(金)	2日目 8/2(土)	3日目 8/3(日)	4日目 8/4(月)	5日目 8/5(火)
4:00					起床			
5:00					出発	起床		
6:00		起床 身支度	起床 身支度		藤崎着 朝食	昆虫採集 (1,2年)	起床	起床
7:00		朝食準備 弁当づくり	朝食準備		・地引き網 体験	朝食 荷物整理	朝食 手伝い	朝食 手伝い
8:00	登校・海 の運動会	朝食 片づけ	朝食 片付け			準備	畑仕事 団らん	荷物整理 掃除・
9:00	<遠泳> ・ 1100m	海の活動 準備	荷物整理 校舎清掃		講話：漁師 ・ 浜遊び	出発		
10:00	・ 400m	椎谷海岸着 食料調達	食料調達 相談・分担	登校 高浜小出発	・水泳 魚さばき	姫川川遊び 地元児童 との交流		民宿発 郷土食 (笹寿司づ くり体験) 絵手紙講習
11:00	・ 200m 挑戦	昼食準備	昼食準備	根知着	・海鮮 バーベキュー			
12:00	昼食 (おにぎり)	昼食 (弁当)	昼食 片付け	昼食	能生漁港 船見学	昼食	昼食	昼食
13:00	休憩		休憩	対面式 活動説明	市場見学	宿舎着 荷物掃除	活動準備 民宿発	解散式
14:00	作物収穫 作業	食料調達	振り返り 全校集会	根知探検 ・ 特区田 ・ 果物畑 ・ 大地溝帯			間伐体験 (しろ池の 森)	根知発
15:00		学校着・ 休憩	児童下校		宿舎到着	1.2年帰校	砂防ダム	
16:00		相談・分担 夕食準備		宿舎到着 荷物整理	水着洗濯	民宿の方 との対面	見学	学校着
17:00	PTAバ ーベキュ ー大会	夕食		入浴 休憩	入浴 休憩	民宿へ (3~6年)	民宿着 片付け 手伝い	下校
18:00		片付け		夕食	夕食	夕食	夕食	
19:00		休憩 遊び		星空観察	・ 地元伝承 紙芝居	手伝い	手伝い	
20:00	振り返り 班会議	振り返り 班会議		振り返り 班長会議	振り返り 班長会議	団らん 入浴	入浴 団らん	
21:00	就寝	就寝		就寝	就寝	振り返り	振り返り	
	自給自足宿泊体験学習			糸魚川根知地区体験学習				
	ふるさと生活宿泊体験学習							

#### プログラムを構成する上のポイント

健康・安全面での配慮をする。

人との出会いを大切にする。

自然に浸り、楽しむ時間を作る。

地域活性化のため、事後に活用可能な体験を盛り込む。

次年度の自給自足宿泊体験学習に生きる技術獲得の場を設ける。

協働の喜びや達成感を得る活動を入れる。

子どもの提案を一部盛り込む。

ゆったりできる余裕を作る。

#### 4 体験活動での活動内容や児童の様子

##### (1) 目標 課題解決の育成及び目標 食と環境を大切に作る心にかかわった活動内容

###### ア 自給自足宿泊体験学習の実践

自給自足体験学習 2 年目の活動である。この活動は、1100mを泳ぎ切る遠泳を含めた 2 泊 3 日の学校宿泊体験である。海で捕った魚や貝、育てた畑の作物、低学年が飼育している鶏の卵だけで 3 日間を過ごす。昨年度の調味料は、海からとれる塩のみ。単調な味の食事で食欲が出ず体調を崩す子どももいた。子どもたちの願いは、塩以外の調味料を欲しいということだった。

###### イ 児童の様子

昨年度の反省を踏まえ、「自分の力で得た食材で生きる」という原則の中で、4 月から子どもたちは主体的に学習を進めてきた。

低学年は、鶏の卵を地域の人に売ってそのお金で調味料を買いたいと願った。「たまご売り隊」を結成し、下校時に地域で卵を売ることにした。しかし、過疎化が進んだ地域のため、下校時に歩く人はほとんどいない。一軒一軒訪問販売してやっとの思いで売りさばいた。その経験から、値段付けやチラシ作りや 2 時間もかけたチラシ配りなどを行い、幾多の困難を克服して 3 千 3 十円の収益を得た。

この活動の中で、地域に愛されている自分を見出し、中越沖地震により被災した仮設住まいのお年寄りを思う気持ちに目覚め、地域の方に新鮮でおいしい卵を食べてもらいたいと願うようになる。卵を産んでくれる鶏への感謝の気持ちももつ。全校を集めて、どの調味料を買うかを 2 年生の司会で話し合い、感謝を込めて地元の店から醤油と油を 1 リットル購入した。候補に挙がった調味料のうち、贅沢品は排除され、必要な物を必要な量だけを購入した。宿泊体験当日は苦勞して得た調味料が大活躍して全校に感謝され、満足感を味わった。

中学年は畑栽培の中心を担ったが、狸やカラスの被害防止対策に取り組み、何とか野菜と主食のジャガイモを収穫するに至った。また、味噌作りにも挑戦して全校に感謝された。地域の味噌作り名人を捜し出して自主的に教えてもらいに行き、担任と味噌作りをした。

高学年は、地域の竹林整備活動を始め地域を守る活動に加え、宿泊体験当日には、海に潜りサザエを捕り食料調達で力を発揮し、食事作りでもリーダーとして活躍した。



(野菜を運ぶ子どもたち)



(海での食料探し：低学年)



(食事作りの活動)

今日朝起きて、すぐ畑へ行って野菜を採りました。重い物はみんなで分けて持ちました。料理は、朝と昼の分を作りました。朝はうまくいきました。昼は、主食はうまく作れました。しかし、朝に昼の分として作った味噌汁が多すぎて残ってしまいました。そして、捨ててしまいました。2 食分作るときは、量にも気をつけたらいいということが分かりました。(6 年 男子)  
(前略) くぼ貝をゆでて中身を出そうとしても出てこなかったので、貝をトンカチでつぶしたらきれいに身が出てきました。(中略) 夜にとりすぎたカニなどをにがしに海へ行ったけれど、カニが死んでいたの、かわいそうだと思います。(後略) (3 年 女子)

(2) 目標 自分にできることを考え実践する力の育成にかかわった活動内容

ア 「こんな高浜だったらいいな」と夢を実現した活動～植樹・球根植え～

ふるさと生活体験 1 日目にフォッサマグナパーク、過疎化対策の特区田やブルーベリー畑等の根知探検を行った。バス見学のため内容が難しすぎだと感じたが、子どもは細かく



(間伐体験活動)

記録し、高浜地区と比較して考えていた。2 日目の能生漁港での体験活動や 4 日目のしる池の森での間伐体験等に対しても同様の構えが見られた。

間伐体験時間は約 1 時間半。間伐する場所は、間口 3 m ぐらいの範囲だった。参加児童は中学年以上である。森林組合の指導員による安全に配慮した丁寧な指導を受け、全員が自力で木を切り取る体験をすることができた。

- ・根知地区では、ひまわりがたくさんあったから、通学階段に花を残したいです。1 年生が入学する時、高浜が好きになると思うからです。
- ・山と海の自然の両方を大事にしていると思った。
- ・山の涼しい自然を考えた。友夕遊歩道の間伐をしたり整備をしたりして、高浜も良い所にしたい。
- ・地域で協力して、この地域を元気に活性化させたい。自分から動かなければいけないと思った。
- ・間伐体験は、里山の方で役立つと思います。

昨年の中越沖地震で、高浜地区はひどい被害にあった。子どもの家もほとんどが半壊であった。児童の活動場所の友夕遊歩道のある学校裏の里山も大きく 2 カ所が崩れ落ちた。

今年の遠泳時には、海底が持ち上がり海藻の生育が芳しくないことにも子どもたちは気付いていた。

そこで、根知での体験を生かして、学校近辺の自然環境整備を実施することにした。

学校下の海岸を利用する人のために通学階段脇に紫陽花を植える。

スイセンとチューリップの球根を植え、入学する 1 年生を待つ。

里山を整備し遊び場を作る。また、植樹をして山と海を守る。

通学階段の紫陽花は、地域の方と一緒に汗を流して植えた。大変な重労働だったが、協働の喜びを子どもたちは感じ、地域の方への感謝の気持ちをもつことができた。球根植えは、昼休みを利用して子どもと職員で植えた。1 年生がびっくりするくらいきれいな花を想定したので、1000 球も植



(紫陽花植栽)



(遊歩道整備作業)

えた。子どもは、授業が終わると「やります。」と作業に来た。(球根植え)

友夕遊歩道整備は大事業であった。木の枝を生かした基地、藤づるを活用したターザンロープ、太い枝分かれを利用したブランコ作りなど夢が広がった。そして、子どもが間伐した場所にはどんぐりの木を植えた。2 m 近い苗木を山に運び上げるのは一苦労だったが



(里山で遊ぶ子ども)

子どもは植樹し終えた。皆、達成感を感じた。

### (3) 目標 初対面の人とも人間関係を築く力の育成にかかわった活動内容

#### ア 子どもだけで泊まった民泊体験

宿泊体験学習の後半の2泊3日の宿泊は、3年生以上の民泊体験とした。当校では人との関係づくりの絶好の機会とこの活動をとらえていたので、子どもと一緒に宿泊しないことにしていた。職員は民宿まで子どもを見送り、子どもが落ち着いたら宿舎に戻った。



(家族団らんの一時)

そして、決めた巡回時刻に子どもの様子を見回った。

#### イ 民宿での子どもの様子

低学年が帰校するとき、不安からか泣き出した3年生がいたが、すぐに慣れた。民宿では、犬の散歩係をしたり料理の手伝いをしたり、トラックに乗って畑仕事に出かけたりした。ちょうどお祭りの日だったので、花火に連れて行ってもらったり、民宿のお孫さんと仲良く枕を並べて眠ったりした子どももいた。最終日は別れがたくて当校児童と一緒に体験活動し、涙のお別れになった。別れの辛さを知る貴重な体験となった。



(なかよしになったよ)

## 5 体験活動の成果と子どもたちの変容(事後の指導)

### (1) 民泊の意義

民泊経験は、意義が大きかった。不安に打ち勝ち、見ず知らずの人と親交を深めるこの体験は、子どもを大きく育てたと考える。再会を楽しみにしている児童も多い。

民泊するのは3人程度までが適当ではないか。今回男子4人の民泊の様子は3人以下で泊まった子どもたちに比べ、心情の深まりが薄かった。

### (2) 勤労体験の意義

目的の明確な勤労体験は子どもを育てる。帰校後、地域に夢を抱き体験を生かした活動を子どもたちは積み重ねている。協働の喜びに「達成感」とよく言うようになった。



(浜清掃活動)

浜に打ち上げられるゴミは膨大な量である。恒例の浜清掃にシルバー人材の協力が得られなくなったことを知ったとき、子どもたちは主体的に動き出した。地域への協力依頼に奔走し、もしもの場合に備え、1週間 昼休みに浜のゴミ集めをした。浜清掃当日の参加者50名。浜のゴミはきれいに片付いた。地域の方と協働する喜びと感謝で一杯の子どもたち。「自分で動く」意義を知り、「よくやった。」と自分を褒め、成就感を味わった。



(感謝の会)

感謝の会のメニューは、おにぎり、ゆで卵、野菜のみそ汁。わざと素材の味が分かる献立にした。調味料はもちろん高浜の海の塩。そのおいしさにみんな感激した。

お客さんに感謝され、低学年は、鶏にも感謝の気持ちを抱いた。

感謝状を渡す頃には、お客さんもしんみりし、涙っぽくなった。形だけではなく、心を込めておもてなしすることができるようになった。

### (3) 自然に浸る活動の意義

海の活動や川遊びなど自然に浸る活動は、大変良かった。自然の中で伸び伸びと活動することで、心地よさに酔いしれていた。自然を大切にしたいと願う子どもが育っている。



(川遊び体験)

## 6 保護者の反応（アンケート調査から）

糸魚川市根知地区の選定は良かった	90%	宿泊体験は生活習慣を養った	90%
勤労生産活動や自然体験が十分できた	80%	宿泊体験は協力心を養った	90%
初めて合う人とうち解けて活動できた	80%	宿泊体験は教育的効果がある	90%
民宿に泊まった教育的意義について	50%		

温かく迎え入れてくれた地域の方々が出て、子どもたちがそれを受け入れる素直さがあったように思う。

自分自身で何事も取り組まなければならないことを実感できたことは意義がある。

宿泊体験以降、少しは生活の決まりを守ることになった。

数日間生活を共にするには自分の気持ちだけでは動けない面が強く出るから、教育的効果がある。

根知の人々は地域に根ざした活動をしている。その取組は、子どもにも伝わったと思う。

実体験による学びに結び付いていた。

食べ物に対する意識が変化してきている。食べ物の大切さを言葉にするようになった。

以前より家事を手伝うようになっている。子どもを温かく迎えてくれた根知の皆さんに感謝します。

我慢する力は付いたように思う。

ふるさと体験とこれまでの学校の体験は、別物のように思う。学校の活動を推し進めてください。

欲をいえば、接客体験や手伝い等をもっと取り入れてほしい。

## 7 受け入れ地域からの感想等（アンケート調査から）

宿泊体験学習は教育的意義があった	100%	受け入れ側の活性化に効果があった	70%
民泊は教育的効果があった	90%	受け入れ側の人材活用の機会となった	70%
子どもたちの学ぶ意欲が見られた	100%	交流による相互理解の深化に寄与した	50%

今まで女の子を泊めたことがなかったので不安でしたが、とても楽しい二日間でした。別れが本当に辛かったです。良い経験をさせてもらいました。

すごく楽しい経験でした。お別れするときは、本当に寂しかったです。先生も生徒も仲が良くてうらやましかったです。これからはすすすく、のびのび、思いやりの心をもったまま成長してほしいです。

親元を離れ、人とのふれ合いや我慢することなどたくさん学んでくれたと思う。

部屋の片付け、掃除等から見て、子どもに意欲が見られた。

アイデアがいっぱいあり、話が弾み、「家族に食べさせたい」などの言葉も聞け、子どもたちは、真剣に取り組んでいたと思います。

民泊経験は自立心を確立するのに効果があったと思う。

事務局サイドとして、全泊民泊は実効性に限界があると思う。工夫が必要。

## 8 今後の課題

- (1) この宿泊体験学習の本質的な効果をねらうには、その前後の学習への取り組み方が、成否を分けると考える。修学旅行的な体験で終わることがないような努力が必要である。
- (2) 民泊等では各家の事情もあり、同じ条件ではない。体験に差異が生じることも多い。今回の体験活動を通して、一軒に泊まる人数は、2～3人がよいと感じている。

民泊体験は意義深いですが、大規模校等では少年自然の家等の施設利用とならざるを得ないと考える。